

世界初！？「アユモドキベンチ」が完成しました！

すでに入場者数5万人を突破するなど好評いただいている琵琶湖博物館 30 周年記念企画展示「博物館はタイムマシンー魚類学者がみた琵琶湖ー」に合わせて、「アユモドキベンチ」が完成しました。令和8（2026年）9月12日（土）から企画展示室に設置します。

概要

- ・世界初！？「アユモドキベンチ」が完成しました。アユモドキにまたがって記念撮影をしていただくことができます。
- ・タイプ標本を中心に 3D 画像を作成しました。新種記載の基となったタイプ標本の一部やヒガいの仲間を全方向から詳しく見るができます。
- ・新・琵琶湖のお魚ポスターをアンケート回答者に限定配布します。

詳細

● アユモドキベンチ

アユモドキ *Parabotia curtus* (Temminck and Schlegel, 1846) は、シーボルトが日本から持ち帰った標本を基に名前が付けられた、日本固有の淡水魚です。絶滅危惧 IA 類、国の天然記念物にも指定されており、現在は岡山県と京都府の一部にしか生息していません。滋賀県では 1992 年以降、野生のアユモドキは確認されておらず、県内では最も絶滅が危惧される淡水魚の一つです。

アユモドキをもっと多くの人に知ってもらい、その保全について考えてもらうきっかけとして、「アユモドキベンチ」を作りました。このベンチには、いつか滋賀県で再びアユモドキが泳ぐ姿を取り戻したいーそんな願いが込められています。企画展示室の令和コーナーで9月12日（土）に設置、お披露目予定です。

なお、ベンチは株式会社木下カンセーから寄贈を賜りました。



完成したアユモドキベンチ

● タイプ標本をはじめとした魚類標本 3D 画像公開

タイプ標本は学術的に重要な標本のため、実物を手に取ることは基本的にはできませんが、3D 画像になったことで誰でも詳細に見ることができるようになりました。展示室に設置している二次元コードを読み取ることで、実際に展示しているタイプ標本もしくは関係するタイプ標本（ホロタイプ）をどの角度からも見ることができます。今回作成した 3D 画像は以下の

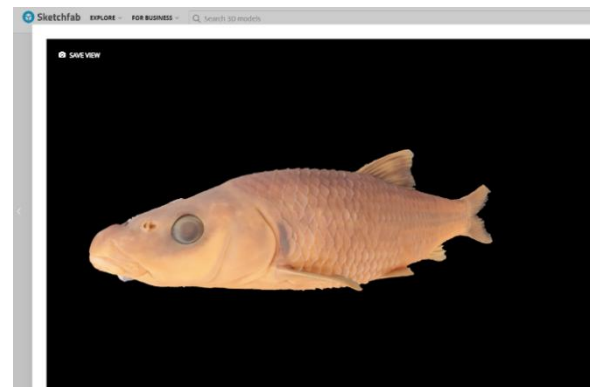
通りです。

(五十音順、特に記載のないものは当館所蔵の標本)

- ・ アブラヒガイ (パラタイプ) FAKU 50832、京都大学舞鶴水産実験所所蔵標本
- ・ ウシモツゴ (パラタイプ)
- ・ コイの咽頭歯 現生コイと化石コイのタイプ標本
- ・ スナゴカマツカ (パラタイプ)
- ・ ナガレカマツカ (パラタイプ)
- ・ ニホンイトヨ (パラタイプ)
- ・ ヒガイ類標本
 - －カワヒガイ、京都大学舞鶴水産実験所所蔵標本
 - －ビワヒガイ (ツラナガ)、国立科学博物館所蔵標本
 - －ビワヒガイ (トウマル)
 - －ビワヒガイ (ヒガイ)

※ヒガイは、漁師さんが様々な名前呼び分けるほど、かつて頭部や色彩の多型が知られていました。しかし現在は、顕著な変異が見られなくなり、多様性が失われてしまっています。多様なヒガイの世界を知っていただくために、様々なヒガイを3D化しました。

- ・ ビワマス (ホロタイプとパラタイプ)
- ・ ヨドゼゼラ (パラタイプ)
- ・ レイホクナガレホトケドジョウ (ホロタイプ)



3D 画像の例：国立科学博物館所蔵ビワヒガイ (ツラナガ)

● 新・琵琶湖のお魚ポスターの限定配布

人気の高かった琵琶湖のお魚ポスターを今回の企画展示に合わせてリニューアルしました。

9月15日(火)から平日限定、企画展示に来場しアンケートに最後まで答えてくださった方(1グループ(家族)1枚まで、個人チケットでご入場の方のみ)にプレゼントします。引き換えは、おとなのディスカバリーの質問コーナーで行います。

限定2,000部となりますので、在庫が無くなり次第終了となります。



新しくなったお魚ポスター

企画展示詳細

開催情報

- ・ 期間：令和8年（2026 年）7月 18 日（土）～11 月 23 日（月・祝）
- ・ 時間：9：30～17：00（最終入館 16：00）
- ・ 場所：琵琶湖博物館企画展示室
- ・ 料金：大人 340 円（団体料金：270 円）、大学生 240 円（同：210 円）
小・中学生・高校生 170 円（同：130 円）

※ 企画展示の観覧には別途常設展示観覧料が必要になります。

※ 団体料金は 20 名以上からとなります。